

デジタル文献は学術研究にどう利用されているか——論文執筆、翻訳、校訂

報告者 柏崎正憲（一橋大学講師） 2024年10月23日（水） 10:15-11:45

第41回西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学社会科学古典資料センター）

思想史とデジタル文献

- 思想史： 哲学、倫理学、政治学、経済学、宗教学、等々に隣接。体系的な思想や理論それ自体だけに着目して、その歴史的発展を描くのではない（そういう研究者もいるが）。むしろ、あるテキスト群から鍵となる諸要素（語や観念）を取り出し、それらの意味を著者の見解だけでなく歴史的な文脈に照らして明らかにしたうえで、いわば歴史的建築物を復元するように思想を再構成してみせる学問だと思っている。
 - テキストの扱い： 思想史研究はテキスト（文献）を、思想の生成、発展、変化の痕跡として扱う。また、テキストの精読と並行して、テキスト間の歴史的な相互関係（コンテキスト＝文脈）を考証する。
- 思想史研究におけるデジタル化の効用： 出版物と手稿類の双方において、データ収集・調査の可能性が大幅拡大。思想の「復元」のための材料の増加。
 - 出版物： リプリントや校訂本が出ておらずアクセス困難な無数のテキストが利用可能に（とくにマイナー思想家）。OCR 処理により検索可能になることも多大なメリット。
 - 手稿類（原稿、未刊行著作、講義録、手紙、日記など）： 特定のアーカイブに（条件を満たしたうえで）足を運ばなければ利用できない資料が、より容易に利用可能となる。校訂本が出ていても、それには再現されない加筆修正等の実際の状態や、編集者の誤読について確認する手段を提供してくれる。
- 報告者の研究におけるデジタル文献： 報告者の研究主題は、ジョン・ロック（1632-1704）の社会思想、カール・マルクス（1818-1883）とヘーゲル左派の思想。基本的には、伝統的で“アナログ”なテキスト精読を手法としており、デジタル人文学（文献学、アーカイブ化、テキストマイニング・計量分析、等々）を実践しているとは言えない。
 - アナログ的研究にデジタルアーカイブをどう活用できるかを例示したい。

報告者が使用するデジタルアーカイブの一部（O: オープンアクセス L: ライセンス要）

O: Google Books <https://books.google.com>

O: Archive.org <https://archive.org>

O: Wikisource <https://wikisource.org>

L: Early English Books Online (EEBO) <https://www.proquest.com>（検索エンジン）

O: Karl Marx / Friedrich Engels Papers (IISG: Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis) <https://search.iisg.amsterdam/Record/ARCH00860/ArchiveContentList>

※ 一橋大のアーカイブはこれから使いこなせるようになりたい。（まだ着任半年なので…）

ケース1 16・17世紀の英語文献における industry (勤勉) の意味転換

目的： industry (industriousness) という英語が、歴史のなかでいかに意味を変えたのかを探る。

方法・作業過程： EEBO を使って、industry の特徴的な用法を含んだ 16・17 世紀の刊行物を見つけ出し、分析する。

結果： industry の意味転換 = <身分的義務への専念⇒物質的生産への貢献> と判明。

ケース2 ブルーノ・バウアーにみるヘーゲル哲学の急進化

目的： ブルーノ・バウアー (1809-1882) という比較的マイナーな思想家の一次文献 (全集などの校訂本が揃っていない) を集め、いかに彼がヘーゲル哲学を受容したかを探る。

方法・作業過程： Google Books などを使って文献収集。バウアーの論争相手の著作も。

結果： バウアーが「無神論」の表明以前 (1841 年) から、ヘーゲルの宗教哲学を急進的に解釈していたことが判明。

ケース3 マルクスの唯物論史の「ネタ本」研究の翻訳

目的： マルクスが『聖家族』(1845 年) で叙述した唯物論史には、実はネタ本があったとする O. Bloch の研究成果を翻訳する (O. ブロック「マルクス、ルヌーヴィエ、唯物論史」柏崎正憲訳、『マルクス研究会年誌 5』2022 年)。

方法・作業過程： 当のネタ本である Revouvier, *Manuel de moderne philosophie*『近代哲学の手引き』の内容が、著者による引用だけでは理解しにくいので、ウェブ上のアーカイブを使って原典を探し出す。

結果： 『近代哲学の手引き』原典を参照し、より正確な訳文を作ることができた。

ケース4 マルクス手稿 (抜粋ノート) 出版のための校訂

目的： 『マルクス=エンゲルス (歴史的・批判的) 全集』(いわゆる MEGA²) の第 4 部 17 巻 (1863 年 5-6 月のマルクス抜粋ノート) を編集、出版する。

方法・作業過程： IISG 所収のマルクス手稿を参照する、また抜粋の原典をウェブ上のアーカイブで探し出す。

結果： マルクス原稿の活字化における誤りを避け、また注記作成に必要な情報を得ることができた。

※ 当日に使用する視聴覚資料 (スライド) は、報告者の researchmap ページ (講演・口頭発表等) にアップロードします。 <https://researchmap.jp/7000007329/presentations>